富山大学経済学部『卒業論文集』

投稿規定

投稿資格

1. 富山大学経済学部『卒業論文集』（以下、本誌）に投稿できる者は、富山大学経済学部４年時に在籍する学生とする。

2. 投稿に際しては、所属するゼミナールからの推薦を得なくてはならないものとし、原則１ゼミナール１名までとする。

3. 執筆に際しては、別紙の執筆要項に従うものとする。

投稿受付期限と掲載可否の通知

4. 本誌の発行は年１回とする。投稿の締切は、卒業論文提出締切日必着とする。

5. 編集委員会は、締切期日までに到着し、かつ、執筆要項の基準に従った投稿であるかを確認した上、応募者に対して掲載の可否を締切期日後に通知する。

その他

6. 投稿者が本誌掲載の論文を他の出版物に転用する場合には、あらかじめ文書でその旨を申請し、編集委員会の了承を得なければならない。

7. 投稿者は投稿原稿の採否が決定される以前に、投稿原稿を卒業論文として本学経済学部に提出する以外に他の機関への投稿、または他の出版物において公刊してはならない。

8. 原稿料は支払われない。希望者は自己負担で抜き刷りを作成することができる。

以　上

富山大学経済学部『卒業論文集』
論文執筆要項

第１条（論文の言語）

投稿原稿は日本語または英語のいずれかで記述すること。

第２条（論文の字数・書式・提出）

日本語原稿は,横書き A4 用紙 1 枚につき 40 字×35 行で 15,000 字以上,20,000 字以内とし,英語原稿は A4 用紙 1 枚につきダブル・スペース 20 行で 5,000 語（words）以上,7,000 語（words）以内とする。字数には,要旨,本文,注,参考文献,図表等をすべて含むものとする。用紙の余白は標準とし,フォントについては日本語の場合は MS 明朝,英語の場合は century とする。フォントサイズは 10.5 ポイントとする。ただし,タイトルは 20（サブタイトルは 18）,章と節などのフォントは 12,これらについては MS ゴシック太字とする。脚注欄は 9 ポイントとする。なお,投稿は MS ワードのワープロ原稿とし,電子ファイル形式で別途指定する投稿受付窓口へ提出する。

第３条（論文の体裁）

①原稿の 1 枚目には,タイトル,学籍番号,著者名,所属ゼミ名,要旨（日本語の場合は 400 字以内,英語の場合は 150words 程度）,キーワード（6 つ以内）を記載し,1 行あけてから本文を記載するものとする。

②図表は本文の中に挿入し,本文の後に参考文献を記すものとする。注は文末脚注とする。

③アンケート用紙（調査票）,訪問企業リスト,ヒアリングデータ,写真等の添付資料,および奥付,謝辞等については,参考文献リストの後に続けて挿入するものとする。

第４条（図表）

図表は,1 枚 200 字（英語の場合は 60 語）換算とし,通し番号を付け,必要に応じて注を書き,著作権法に基づき,データ出所や引用文献などの表記は明確に行わねばならない。

第５条（参考文献の記述方式）

①原稿本文中で引用の対象とした文献については,（著者,刊行年）とする。

（例）MNE の行動は・・・・・という特徴を持つ（Porter,1996）。

複数の文献を同時に引用する場合は,アルファベット順に並べる。

（例）・・・と指摘されている（Buckley,1986;Rugman&Verbeke,1992）。

また,著者に言及する場合（あるいは直接引用）は,著者（刊行年：ページ）とする。

（例）伊丹（1996：28-29）によれば…「〇〇は…である」という。

②脚注を使用する場合は文末脚注（後注）とし,参考文献リストの前にまとめて挿入する。

③本文で引用した文献については,本文の後に参考文献として一括して記述する。その際,著者（刊行年）文献の順とする。和文,英文ともにアルファベット順に並べてリスト化する。インターネットからの引用文献には URL とアクセス日を記すものとする。

（例）

●和文

書籍

藤本隆宏(1997)『生産システムの進化論』有斐閣。

和文書籍内の章

立本博文(2008)「コンセンサス標準をめぐる競争戦略」新宅純二郎・江藤学編著『コンセンサス標準戦略』日本経済新聞出版社,36-84 頁。

和文論文

松本雄一(2015)「実践共同体構築による学習についての事例研究」『組織科学』Vol.49,No.1,53-65 頁。

●英文

Books

Rugman, A.M. (1981) Inside the Multinationals. New York: Croom Helm.

Chapters in Edited Books

Teece, D.J. (1987) "Capturing Value from Technological Innovation: Integration, Strategic Partnering and Licensing Decisions" in R.B. Guile and H. Brooks,(eds.) Technology and Global Industry: Companies and Nations in the World Economy. Washington, D.C.: National Academy Press. pp.19-38.

Papers（articles）

Barney, J. B. (1986) "Strategic Factor Markets: Expectations, Luck, and Business Strategy", Management Science, Vol. 32, No. 10, pp.1231-1241.

●インターネット引用

「トヨタ生産システム中国で大進化を遂げる」http://business.nikkeibp.co.jp/3article/manage/20061012/111612/（2016 年 7 月 21 日アクセス）

Van de Vliert, E. (2002) “Thermoclimate, Culture and Poverty as Country-level Roots of Workers' Wages.” [www document] http://www.jibs.net (accessed 13 January 2013).

以 上

1ページ目のフォーマット

卒業論文集への提出原稿の書式について

ー執筆要領らしきものー

1133****　経済学科　中村和之

中村(和)ゼミナール

要旨

ここには富山大学経済学部が発行する卒業論文集への提出原稿の体裁をまとめた。このページ自体が卒業論文集のフォーマットに沿って作成されている。まず、この「要旨」の欄には、論文の要旨を 400 字以内で書く。読者が論文に興味を持つよう、論文の問題意識や主要な結論、分析手法等をわかりやすく述べる工夫をする。また、不明な点があれば指導教員の指示にしたがって作成してほしい。キーワードには、論文を理解する上で重要な言葉を 6 つ以内とする。

キーワード：○○○○、△△△△、□□□□。

1　はじめに

今年度から富山大学経済学部では、ゼミ教育の可視化を図るため、卒業論文集を作成することとした。各ゼミの優秀作品を集めた卒業論文集を作成し発行することを目指す。

卒論は単に修得した知識をまとめる作業ではなく、大学で学修してきた内容に基づきながら自分自身の考察を加えて作成していくものであることから、大学における学修の集大成との位置づけとなっている。また、一般的な研究論文で求められる「問題設定」「仮説設定」「分析方法の確立」「分析結果に対する考察」「インプリケーション」等が卒論においても求められるため、その制作を通じ、問題発見能力や論理的思考能力等を磨く上でも極めて意義深い教育となっている[1]。

だが、学生によってはこうした卒論の意義を十分に理解しておらず、そのために資料収集や分析作業等においても十分な時間をかけず安易に済ませてしまう学生がいることも事実である。

そこで、学生の意識を啓蒙するためにも、優秀作品についてはゼミや学科の枠を越えて広く紹介できるような論文集を作成し公開することを提案したい。優秀作品の選出は各ゼミナール教員に一任することとし、公開の範囲は経済学部内とする。具体的には、各研究室および 3 階資料室、掲載された論文を執筆した学生それぞれに対して 1 冊ずつの配付を

[1] 本文の内容を補足する必要がある場合に、この脚注欄を使用することができる。ここの文字のポイントは 9.0 とする。

考えている。

以上を通じ、本学部におけるゼミ教育の可視化に役立てていくだけでなく、本学部共通の教育資産として活用されることを願っている。

２．期待される効果

本学部（昼間主）では、卒論は卒業要件となっているが、その成果は各ゼミの中だけで完結されており、学生は自身の所属するゼミ以外の卒論に触れる機会が与えられていないのが実状である。そこで、優秀作品を選出し、これを学部内で公開することによって、卒論を作成する学生たちの意識づけやモチベーションの向上を期待したい。

また、本学部は経済、経営、経営法の 3 学科に分かれていることから、本論文集を通じて本学部の学生に対して多様な研究成果に触れられる機会を提供することにもなると考えている。

（以下、省略）

※挿入図法や参考文献リスト等については論文執筆要項にも載せてはいるが、基本的に各ゼミの指導方針に従うものとする。